

就活体験談



タウファン ハディ パンドウセゴロさん

国籍：インドネシア
出身大学：立命館アジア太平洋大学
専攻：アジア太平洋マネジメント学部
日本留学期間：2005年9月～2009年9月
会社：富士通株式会社
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

なぜ日本企業が世界レベルで戦えるのかという疑問を解くためでした。世界中でビジネス展開している日本企業に対して、アジア諸国の多くの企業はなぜ世界スタンダードまで達していないのかという疑問がありました。日本企業に入り、彼らと共に働くことでその疑問が解けると考えました。

■勤務予定先の選択理由

大手の日本企業の中で一番グローバル化を加速している会社だったからです。就活時、国内シェア1位でも海外ではまだ下位の商品も多く扱っている一方、海外研修の充実さや新規開拓の事例が多く取り上げられていました。「まさにこれから」というイメージが強かったです。

■勤務先の事業内容と担当業務

パソコン事業です。担当業務は主に海外向けに販売するパソコンの需要予測、生産計画の立案です。

■企業への自己アピールの内容

ものづくりの知識と英語力でグローバル化の加速に貢献できるとアピールしました。学生時代にトヨタ生産方式といったものづくりの授業を受講したことや、アルミ工場でのインターンの経験を伝えました。

■就職活動の際の応募企業数

説明会は30社、プレエントリーは15社、面接は15社くらいでした。

■効果的だった就職活動対策

エントリーシート作成のコツが分かる本です。人事は何千枚ものエントリーシートを読むため、“読みたくなる”エントリーシートの重要性や書き方が説明されていました。文章の構成や強調したいフレーズを太字・大文字で書くという点も参考にになりました。

■業界・企業研究の方法

会社のホームページを参考にする事です。採用

ページの社員インタビューはいつも読んでいました。また、企業の説明会に参加し、配布された資料を何度も読むことで更に理解を深めました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

だらだらと書かないことです。気を付けたことは、①簡潔に書く(漢字を書くことが苦手だったため、どう表現するかを考え、簡潔で短い文章にする)、②ストーリー作り(質問項目の内容が繋がっているとストーリーができ、説得力が増す)の2点です。

■面接での注意点

聞く姿勢を意識することです。グループ面接で、面接官は聞く姿勢も評価します。他の学生が話している時に、自分が何を話すかを考えて周りの話を聞かないことがないようにしました。

■面接で聞かれた質問

●「自社のパソコンを使っていますか」…“御社のパソコンの海外ビジネス展開に貢献したい”と話した時に質問されました。その時使っていなかったので、面接後すぐに購入しました。高品質なので、6年間愛用しています。

●「国に帰る予定はありますか」…留学生がよく聞かれる質問です。企業により聞く目的が異なります。私は“出来るだけ長く日本で勤めたいが、必要があれば帰国する事も考える”と答えました。

■将来の夢

日本と海外の架け橋になる人材になることです。留学生のエントリーシートでよく見かける言葉、“架け橋”がまさに私の将来の夢です。今はその夢に近づいている事を日々実感しています。

■後輩へのアドバイス

日本独特の合同企業説明会や会社説明会に積極的に参加してください。様々な業界・会社の話が一気に聞けるのは、一生に一度の新卒就職イベントだけです。



李 丹琳 (リ タンリン) さん

国籍：中国
出身大学：同志社大学
専攻：文化情報学部・文化情報学科
日本留学期間：2012年9月～2017年3月
会社：NEC ソリューションイノベーション株式会社
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

中国の中学・高校では第一外国語として日本語を選択し、高校で日本語検定 N1 を取得することができました。同志社大学に入学し、文化情報学部で学びました。日本人と日本語でのコミュニケーションをとることが得意になってきたので、大学で勉強した専門知識を活かして、日本で働きたいと思いました。

■勤務予定先の選択理由

社会のインフラから民間事業まで幅広い領域でビジネスを展開し、海外展開も進んでいる会社でグローバルに活躍でき、新しい挑戦ができると思ったからです。

■勤務予定先の事業内容

医療、物流、観光、金融、小売、自治体、農業など、幅広い領域の課題、社会問題に対して ICT を活用した改善策を提案しています。

■企業への自己アピールの内容

主に大学時代、サークルやインターンシップで頑張ったことについてアピールしました。そして、その中から身につけた能力と自分の強みをどのように仕事に活かすかを素直に伝えました。

■就職活動の際の応募企業数

2016年3月に広報活動が解禁されてから、30社ぐらいの企業へプレエントリーしました。合同説明会を含めて約20社の説明会に参加し、そのうち15社にエントリーしました。9社の面接に進み、そのうち一次面接でグループディスカッションを行う企業は5社ありました。

■効果的だった就職活動対策

三年生の秋学期から準備を始めて、積極的に学内就職セミナーに参加しました。夏と冬のインターンシップは、エントリーシートと面接の練習の場としても有効でした。また、自己分析をきちんと行い、自分に合う仕事・業界を見つけるのが大切だと思います。

■業界・企業研究の方法

業界研究の本を読んで、就職サイトと企業説明会で情報を集めました。また、企業の懇談会に積極的に参加し、その会社で働いている先輩社員の声を聞くのも重要だと思います。

■エントリーシート・履歴書での注意点

書き終わってから、誤字・脱字がないようにチェックする必要があります。そして、強調したい部分とその意味のとおり伝わっているか、自分をきちんとアピールできているか友人の意見を聞き、キャリアセンターからも助言をもらいました。

■面接での注意点

事前に準備した質問を聞かれたら、できる限り緊張しないようにして、明確に伝えます。準備しなかった質問に対しては、その場できちんと考えて素直に答えればよいと思います。

■面接で聞かれた質問

会社や応募する職種によって違いますが、主にエントリーシートに基づいて質問されました。志望動機について聞かれ、学生時代に困難を乗り越えてやり遂げたことや将来入社したらやりたいことなどを聞かれました。それ以外は、大学での勉強や自分の弱みまたは強みについて聞かれたこともあります。

■将来の夢

これから IoT の時代が来ると思いますので、IT の力で貧困問題と環境問題を改善したいです。そのために、まず専門知識を身につけて自分を成長させ、社会に貢献できるような人間になりたいと思います。

■後輩へのアドバイス

最初から自信を持って行動し、途中で失敗しても諦めないで最後まで頑張っていくことが大切です。特に、Web テスト・適性検査とテストセンターに関する試験対策は、早めに取り組んでください。必ず良い結果が得られると思います。



イスラム モハマド アミヌルさん

国籍：バングラデシュ
出身大学：尚綱学院大学
専攻：表現文化
日本留学期間：2008年～2015年3月
会社：株式会社シマ商会
日本語能力レベル：日本語能力試験 N2

■日本での就職理由

日本の企業で働くことで、日本とバングラデシュを繋げる橋渡しをしたいと考えました。日本語を勉強して日本の大学に入学し生活する中で、日本の技術やサービス、そして何よりも日本人の働く姿勢が好きになりました。日本語や大学で勉強した知識を生かしていきたいです。

■勤務予定先の選択理由

会社の雰囲気がとても良く、「明るく挨拶が出来る会社を作りたい」という情熱にも惹かれました。何よりも海外営業部門があり、自分がやりたいと考えていた海外営業の仕事が出来ると考えました。海外営業部はグローバルな雰囲気、外国人が働きやすい雰囲気があります。バングラデシュとも取引があり、将来的にバングラデシュをはじめアジアのマーケットで活躍できると思い志望しました。

■勤務予定先の事業内容

中古車や中古車用パーツを国内外に販売する会社です。マレーシアやフィリピンをはじめとするアジア圏やアフリカなど、海外への輸出も行っています。

■企業への自己アピールの内容

語学力(ベンガル語、英語、日本語、ヒンディー語)を活かせる点をアピールしました。また、大学時代のボランティア活動や国際交流活動についてアピールしました。

■就職活動の際の応募企業数

プレエントリーは約30社、会社説明会は約20社、エントリーは約20社、面接は約10社でした。

■効果的だった就職活動対策

日本の就職活動を学ぶことです。大学のキャリア支援授業や就職ガイダンスに積極的に参加し、情報収集しました。また、東北地区よりも関東地区の方が多くの外国人留学生の求人があると思い、東京の企業説明会にも参加しました。

■業界・企業研究の方法

特に力を入れたことは企業分析です。どのような企業が留学生を受け入れているか等について就職情報サイトを中心に調べていきました。さらに、自分がやりたいこと(海外営業)に関わっている企業について詳しく調べました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

自分のアピールポイントをできるだけ具体的に分かりやすく書くよう心がけました。志望動機を作成する際には、企業に合わせるのではなく、本当に自分がやりたいことについて書きました。

■面接での注意点

ほとんどの面接は日本語で行われます。面接では、相手の目を見てはきはきした声で、ゆっくりと分かりやすく質問に答えるように気をつけました。面接の前には、その企業についてもう一度ホームページや会社資料に目を通しました。

■面接で聞かれた質問

将来やりたいこと、大学生活について、どうしてこの業界(企業)で働きたいのか、いつまで日本で働いていきたいのか、大学で学んだことについて、長所と短所、などです。

■将来の夢

将来は、自国バングラデシュと日本の架け橋となり、自国に会社の海外営業所を開設して、そこを拠点とした海外部門のマーケットを広げていきたいです。

■後輩へのアドバイス

出来るだけ早目に日本での就職活動の準備をすることです。活動中は、企業分析やスケジュール調整が大事になってきます。大学の先生や就職活動でアドバイスをしてくださるところに早い段階から相談することをお勧めします。また、インターネットを活用し、留学生情報はもちろん、日本の学生用の情報にも目を通して情報収集してください。



申智恵 (シン ジへ) さん

国籍：韓国

出身大学：一橋大学

専攻：法律学科

日本留学期間：2011年4月～2015年3月

会社：JX 日鉱日石エネルギー株式会社 (現在 JX 日鉱日石開発株式会社 へ出向)

日本語能力レベル：日本語能力試験 N1 レベル相当

■日本での就職理由

日本の大学を通っているうちに自然と日本で就職しようと思ったからです。将来母国に帰る可能性もありますが、日本でキャリアを築きたいと思いました。

■勤務予定先の選択理由

韓国にいる時から E&P (石油開発) 業界に興味を持っていました。現在の会社を選んだ理由は、上流から下流までを事業領域にする分、業界全体への理解が深まると考えたからです。

■勤務予定先の事業内容

現在は、ミャンマー・タイ・ベトナムでのプロジェクトマネージメントを担当しています。プロジェクトによって探鉱、開発、生産といったフェーズが異なり、目標も異なってきます。目標達成のためにオペレーターやパートナー、様々な会社と交渉し、プロジェクトを円滑に進めています。細かい業務としては、プロジェクトの利益最大化を実現するための全体予算管理、プロジェクトの経済性評価、生産量管理を担当しています。

■企業への自己アピールの内容

長所を論理的に話すようにしました。主に大学時代に活動した体育会での経験、ゼミといった団体の中でこそ発揮できるリーダーシップや行動力、周りと調和する力をアピールしました。

■就職活動の際の応募企業数

プレエントリーは 50 ～ 60 社、説明会約 30 社、面接約 20 社です。

■効果的だった就職活動対策

とにかく経験値を上げること。就活で行う企業分析は会社に入ってからみるとほんの一部分にすぎません。その分、本当に自分に合う会社はどこか分かるためにも、業界・規模関係なく様々な会社の説明会に参加し、たくさんの社員の方と話し、就活の軸を決めました。

■業界・企業研究の方法

特に力を入れたのは OB・OG 訪問です。説明会では事業概要の説明が多いため、OB・OG 訪問で何を聞くか事前に考えたうえで、社員から直接リアルな声を聞きました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

論理的に話を構成すること。ES で大学時代頑張ったこと等を聞く理由は、エピソードからどんな人かを探るためです。企業に合う“アピールできるエピソード”を一貫性があるように構成し、面接で漏れなく話せるようにする努力をしました。

■面接での注意点

ハキハキと話し、「一緒に働きたい」という印象を与えること。面接官は能力だけではなく「自分の部下にしたいか」を考えるため、会話の中で自身の良さをアピールしました。また、外国人留学生は日本語が下手だと思われるため、ハキハキと分かりやすく話すようにしました。

■面接で聞かれた質問

日本に留学しようと思った理由、日本と母国で一番異なる点、日本で就職する理由、志望動機、就活の軸、キャリアプラン、大学時代頑張ったこと、リーダーシップを発揮したエピソード、自社でやりたい仕事等。

■将来の夢

自社は 1 年目ですが多くのチャンスがあり、成長しやすい環境です。仕事を通じて勉強し、様々なプロジェクトを経験したいです。将来、特に契約分野の専門性を伸ばしていきたいです。

■後輩へのアドバイス

「適当に受かる」「ネームバリュー」で会社を選ぶと、入社して後悔しますし、第 1 志望の会社でも入社後に気持ちが変わることもあります。就活で自分の将来・キャリアを考え、企業を選ぶことが大事です。たくさんの企業をみる、たくさんの人と会うことをおすすめします。

いまだから話せる 日本の就活

悩み、苦しみ、失敗談など、日本での就活を体験した先輩たちの飾らない生の声をご紹介します。

面接の時などに、日本語で思っていることを正しく伝えることが難しかった。日本人学生と積極的に関わりを持つなど、普段から日本語によるコミュニケーションに慣れておくべきだと感じました。中国 (女性)

Web エントリーをしようと思ったら、志望理由など長い文章の入力が必要だったので、ブックマークだけしておきました。気がついたときには、すでに締切り日を過ぎていて…。準備不足でした。インドネシア (男性)

まったく準備をしないで、SPI を受けました。ベース配分もわからず、時間を使いすぎてしまいました。特に国語は、問題の意味を理解するだけでもたいへんです。十分な準備をしてから受験しましょう。ベトナム (男性)

とにかく就活をはじめるのが遅すぎました。私は工学部で、大学院に進もうと考えている人が多かったようで、まわりの日本人学生も、まったく就活をしていませんでした。自分の将来は、自分で切り開くべきです。韓国 (男性)

留学生を採用する企業かどうかはわからなかったため、はじめからあきらめていました。ある時、同じ大学の留学生が、面接に行ってきたと聞いて、もっと積極的にアプローチすべきだったと思いました。中国 (女性)

日本で就職した留学生の先輩が、まわりになかったため、日本企業がどのような理由で、留学生を採用するのがわからなかった。ある企業の面接では、どう答えるべきかに迷って、黙ってしまいました。台湾 (女性)

日本で就職するために、求められる日本語能力。

留学生のみなさんにとって、日本語能力を磨くことは、決して容易なことではないと思います。日本語によるコミュニケーションにおいては、話す相手やその時々場面によって、言葉を使い分けることが求められます。また、その言いまわしによって、相手に与える印象が大きく異なります。みなさんの日本での生活を振り返ってみても、言いまわしによって生じる微妙なニュアンスの違いに戸惑うことが、少なくなかったのではないのでしょうか。

しかし日本企業に就職し、ビジネスの世界で成功するためには、こうした日本語特有の言いまわしや言葉の選び方にも精通し、十分に日本語を使いこなす必要があります。こうした背景から、日本企業が留学生のみなさんに期待する日本語能力は、きわめて高度なものとなっているのです。

日本企業の多くは、日本で学んできた留学生は、すでに十分な日本語能力を備えていると考えて選考に臨みます。たとえ日本語能力試験で N1 と認定されていたとしても、ビジネス上のやり取りを日本語で行うには力不足と判断されれば、採用を勝ち取ることは困難となるでしょう。就活を成功に導くためにも、日本語の勉強をおろそかにせず、高度な日本語能力を身につけることが大切です。

第一印象とは、「初めて接した時の感じ方」のことです。

就職活動においても、面接試験で最初に評価されるのは第一印象です。面接を有利に進めるためにも、第一印象を良くすることは不可欠とも言えます。第一印象は自分が決めるものではなく、他人が決めるものです。以下のポイントについて、他の人に確認して、悪い点は直すようにしましょう。

1 表情

「表情」は、視覚からくる見た目の印象の中で、一番強いイメージを与えるものです。

良い第一印象を与える「表情」は、自然な「笑顔」です。自然な「笑顔」になるには、リラックスできるかどうか大きなポイントになります。そのためにも、事前の準備をしっかりと、自信をもって臨むようにしましょう。

また、視線も「表情」では重要な要素です。視線の向け方で表情は変わってきます。話す相手の目を見て話すようにしましょう。

2 身だしなみ

「身だしなみ」で大切なことは、「清潔感」です。

「清潔感」とは、相手に対して不快感をあたえない服装や髪型、メイクであり、最も大切なことです。例えば、服や靴に汚れやシワがないか、髪に寝ぐせがついてないか、メイクは派手でないか、爪は切っているか等です。

3 立ち居振る舞いと姿勢

背筋が伸びた姿勢であれば、自然と胸を張った姿勢になります。この姿勢は、一番良い印象を与えるものです。面接では座ることも多いため、座ったときの姿勢にも注意しましょう。「一つ一つの動作にメリハリをつける」ことも大事です。「動作をきちんと止める」ことで動きにメリハリをつけましょう。

■きれいなお辞儀をするためには

頭だけを曲げない……頭だけ下げたお辞儀しないようにしましょう。お辞儀は腰から曲げます。手の位置は男性と女性で異なる……手の位置は、女性は体の前で両手を合わせます。男性はズボンの脇に手を降ろします。指はまっすぐ伸ばしたほうがきれいです。

4 話し方

話し方で最も注意したい点は、声の大きさです。声が小さいと自信のない印象を面接官に与えてしまいます。話をする際は、大きな声でゆっくりと、何よりもはっきりとした発音を心掛けることが重要です。留学生で多いのが緊張してしまい、早口になってしまうことです。できるだけゆっくりと話すように心がけましょう。

ここでは留学生がなぜ日本の就職活動で苦戦しているのかをデータを参考にしながら分析します。先輩留学生が体験した日本での就職活動の困ったことや準備しておけばよかったことなどを整理しました。

留学生が就職活動で困ったこと

右図は先輩留学生へ「就職活動で困ったこと」についてのアンケートの結果です。アンケートの結果をまとめると大きく3つの要因があるようです。

■就職活動に対する理解不足

■ビジネスシーンでの日本語能力の不足

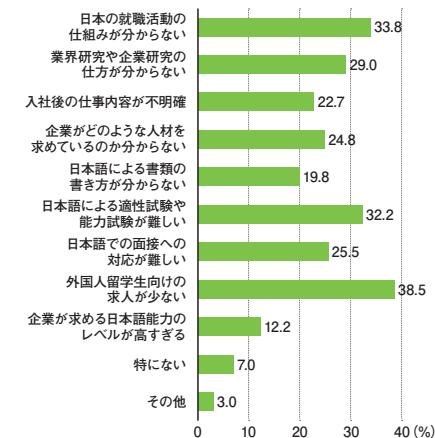
■留学生向けの求人情報が少ない

日本の就職活動は海外と比べ独特な採用方式や文化があり準備に時間がかかるようです。

また、日本語能力については、日常で使用する日本語でなく、ビジネスシーンで使用する高度な日本語能力が必要です。特に就職活動では、筆記試験の問題も提出する資料も日本語のため苦勞しているようです。

求人情報については、外国人留学生を積極的に採用する旨を広報している企業が少いため、留学生を採用している企業を探すのに苦勞しているようです。

■就職活動中に困ったこと



出典：経済産業省「外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査」(2015年)

留学生が就職で足りないと感じたこと

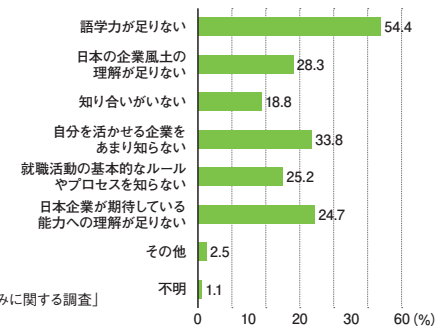
右図は先輩留学生へ「日本での就職にあたって足りないと感じていること」についてのアンケートの結果です。アンケートの結果をまとめると大きく2つの要因があるようです。

■業界・企業理解の不足

■日本語能力の不足

日本企業は独特の企業慣習があります。留学生は、企業がどのような能力を求めているか、自分を活かすことができる企業がどのような企業かを見つけることに苦勞しているようです。また、日本語能力についても企業が求めるレベルに達していないと感じる先輩留学生が多いようです。

■日本での就職にあたって足りないと感じていること



出典：厚生労働省「大学における就職支援の取り組みに関する調査」(2014年)

COLUMN ①で整理した先輩留学生在が「就職活動で困ったこと」に対して、どのように就職活動に取り組んでいくべきなのかポイントを整理しました。

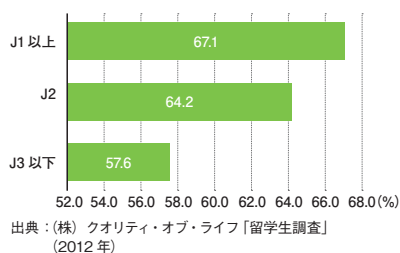
就職活動に対する理解不足

- 日本の就職活動がどのように行われるのか早い時期に理解し、そのために必要な準備を行いましょう
- 就職活動は卒業年次の前の3月からスタートします。準備は早く行うことが大事です
- 経済的な準備、貯金も必要です。就職活動ではスーツ・カバン・靴などの服飾費、交通費等が必要となります
- 自分の就職活動の方法が間違えていないか定期的にキャリアカウンセリングを受けましょう
- うまくいかなくてすぐあきらめる留学生が多いです。最後まであきらめないことが大事です
- 留学生の先輩(就職決定した人、就業している人)からいろいろと就職活動の情報収集をしましょう
- 日本人学生とのネットワークを構築して情報収集しましょう

ビジネスシーンでの日本語能力の不足

- 色々な立場の日本人(先輩・後輩・アルバイト上司・先生・企業で働く人)との交流を行うことで正しい待遇表現力を身につけましょう
- 新聞を読む習慣をつけることにより時事に対する知識と日本語読解能力を身につけましょう
- 就職活動では提出する書類が多くあります。日頃から日本語を書く練習をしましょう
- 日常使用する日本語と日本企業において就業時(就職活動)に使用する日本語は違う性質を持っています。ある程度日本語が上達したら「ビジネス日本語」にチャレンジしましょう
- 最近日本企業においても英語能力を重要視する傾向があります。日本語能力だけでなく英語能力も身につけましょう

■ BJT ビジネス日本語能力テストスコアと内定率の相関関係



求人情報の不足

- すべての日本企業が留学生を採用しているわけではありません。留学生向けの合同企業説明会や面接会には積極的に参加するようにしましょう。
- 大学内のキャリアセンターや学外の支援機関(外国人雇用サービスセンター)等を活用しましょう

就職活動も後半にさしかかると、内定が出る・出ないで一喜一憂することが多くなってきます。ここでは複数の内定が出たときにどうすべきか、内定がまだ出ていない方はどうすべきかを整理しました。

2社以上の企業から内定が出た場合

就職活動の終盤に差し掛かると、2社以上の複数企業から内定が出ることがあります。そうした場合、入社する企業以外には内定を辞退しなくてはなりません。内定を辞退する際には以下の点に気をつけましょう。

- ①内定辞退の連絡はメールではなく、電話で伝える
何度も選考をしたにも関わらず、メールのみで簡単に辞退を伝えてしまうと、相手に誠意が伝わりません。できるだけ電話で相手に辞退の旨をお伝えしましょう。
- ②どの企業に入社するのかを伝えなくても問題ない
辞退の連絡をする際に、企業の担当者から「どこの企業に入社するのか」と聞かれることがあります。その際に入社する企業名を伝える義務はありません。
- ③内定辞退を伝える際に、長時間拘束される等困ったことが発生した場合
内定辞退を電話で伝えると、来社して説明するよう求められることがあります。その際に、企業で長時間拘束されて入社承諾書にサインをするよう迫られたり、内定辞退を思いとどまるよう説得されることがあります。このような事態が発生した場合には、早急に学校のキャリアセンターや就職課に相談しましょう。例え「入社承諾書」や「誓約書」にサインをしても、法律による拘束力はありません。自分の意思に反することを強要されたら、焦らずに対処するようにしましょう。

企業は時間と労力を掛けて皆さんに内定を出します。その分、内定を出した学生への「入社して欲しいという思い」は強い傾向にあります。企業に納得してもらうためにも、誠意ある対応を心がけましょう。

内定解禁以降の就職活動

就職活動は、選考活動解禁時に多くの企業が一斉に選考を開始するため、開始後1～2ヶ月間が一番活発な時期となります。その後、企業は内定解禁となる10月に「内定式(正式な内定通知を渡すための式)」を開催することが多いため、内定式までの採用活動終了を目標とし、採用枠充足に向け活動を続けます。しかし、内定解禁以降も採用枠が充足していなければ学年終了の3月まで採用活動を続けることもあり、10月以降も企業の選考に進むチャンスがあります。特に中小企業では、大手企業の採用時期と重なることを避けて採用活動を行うことが多く、選考のピーク以降に選考開始する企業もあります。企業は採用枠が充足次第、選考を終了します。そのため、興味がある企業には早めにエントリーするようにしましょう。

4月1日に入社するには、在留資格変更手続きを1月末までに行う必要があります。その時期までに申請ができるように、内定獲得に向けて活動していきましょう。